

令和5年10・11月

江差町教育委員会

学校教育課

『大人は子どもの良い教科書』

暑すぎた夏がやっと終わったと安心したら、秋の心地良さを感じたのも束の間で寒い冬が近づいてきました。町内各小中学校の子どもたちもそうでしたが、寒暖差に体調を崩された方は多いことと思います。

11月5日、運動公園で少年野球大会をやっているということで出かけてみました。駐車場には大型バス数台の他に、乗用車がびっしりと並んでいました。びっくりしたのは秋田ナンバーの車が大量にあったこと。球場正面には『第20回北日本少年軟式野球選手権大会』と書かれたトーナメント表が貼りだされていました。チーム名を見ると、秋田県から3チームも参加し、他に岩手県・青森県からも1チームずつ、札幌からも2チームが参加し、檜山選抜を加えた計8チームのトーナメント戦でした。前日の結果を見ると、檜山選抜は準決勝敗退でしたが、朝1番に3位同士の試合が組まれていました。寒い朝だったのでいったん家に戻りしっかりまかなくて、試合時間に合わせてバックネット裏に座りました。檜山選抜は6年生で組んだチームで、江差の選手も参加していました。スタンドでは今回試合に出られなかった子どもたちが、先輩たちを元気づけるべく大きな声で声援を送り、メガホンを打ち鳴らす保護者とともに、甲子園並みの雰囲気を感じさせてくれました。秋田の応援席も賑やかで、はるばるやって来た北海道のグラウンドでのわが子たちの活躍に大いに発散できているようでした。せっかく来たのだから思う存分楽しんでいって欲しいと思いながら観戦させてもらいました。

さて、試合の方は1回表に檜山選抜が幸先よく1点をあげ先制しましたが、2回の裏に秋田のチームが大量6点をあげ逆転します。その勢いから、これまで無駄に年を重ね前向きなエネルギーの乏しくなっている私は『勝負あったか』と思ってしまいましたが、エネルギーに満ち溢れた子どもたちは違いました。3回、4回と加点し逆転、時間制限もあり9対7で檜山選抜が勝利を収めました。子どもたちの躍動に、応援席も一喜一憂の盛り上がりを見せ、私はグラウンドからもスタンドからもエネルギーと幸せな満足感をいただきました。

遠くからたくさんの方々が、江差の地を訪れてくれました。大会であるからには勝利にこだわる面もあります。しかしながら、子どもたちのエネルギーとは別に私の心に残ったシーンがありました。

- ① 3回の表、プレーで地面に落ちたキャッチャーマスクを檜山選抜のバッターが拾って秋田のキャッチャーに手渡しました。二人の笑顔は非常に心に響く。すると3回の裏、同じような場面で秋田のバッターがマスクを拾い上げ、檜山選抜のキャッチャーに手渡しました。相手に対する敬意を日常の練習から指導されて身に付いている所作だと思い、指導者と子どもたちに敬意を抱きました。
- ② 4回の表、檜山選抜がランニングホームランで同点に追いつきました。その時、秋田

スタンドの保護者席から「ナイスバッティング！」と拍手が起こりました。そしてチームのピッチャーには「ドンマイ」と声がかかる。勝敗は意識すれども勝利にこだわることなく、相手の良いプレーを称える。失敗しても全力プレーに拍手が起きる。こうした大人の姿は、子どもたちの心に伝わり、大事な教え・躰となると思いました。

大会を開催するにあたっては、準備段階においてたくさんの労力を伴います。当日の運営スタッフや審判団等、たくさんの人達のお陰で大会が無事成立します。これまで私が経験してきた大会運営では、雑言を残していくチームもありました。今回の大会においては、参加した全チームが『ありがとう！』の気持ちを持って帰られたのではないかと思います。その大人の姿が子どもたちを真っすぐに育てていきます。やはり【格好良い大人の姿】が子どもたちにとって最高の教科書なのです。

晴れとは言え寒い晩秋の日に、心温まる時間を過ごせたことに感謝します。